

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190104279		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部ラシックグループホーム		
所在地	岐阜県岐阜市北一色10丁目38-1		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190104279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和4年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念「ゲストに満足と笑顔、地域に安心と輝きを」に基づき、ご利用者様の時間を無駄にせず、大切に過ごして頂く為、生活リハビリ(ADL、IADL)を中心に行っています。コロナ禍の中、買い物等の外出が出来ない為、施設周りや施設内を散歩したりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、昨年、同法人施設の隣に建てられた複合施設の3階で運営している。岐阜市の中でも、長森地区は地域住民の福祉活動が活発であり、運営推進会議の際に、地域関係者からは事業所に対する期待や協力依頼もある。業務継続計画(BCP)についても、改善・対策の必要性について話し合っている。ホーム内には地域交流スペースがあり、地域住民と共に様々な行事開催を考えていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の為、自粛せざるを得ない状況である。事業所は、最新の光り環境の提供で、利用者の体内リズムを整えながら認知機能改善に向けて支援し、見守り支援システムでは、職員の業務負担軽減にも繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が法人理念を念頭に置き、少しでも利用者の人生史を傾聴するよう努めている。	法人の理念、事業所の目標を掲示している。職員は、各自のネームプレートに入れ、日々、意識しながら支援に取り組んでいる。朝礼や会議の際に唱和し、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流がほとんどできていない 12月に運営推進会議を行い、徐々に交流を増やしている。	地域住民との交流や意見交換ができる場として、同じフロアに「地域交流スペース」があるが、現在は、コロナ禍にあり、実施が難しい状況である。今後、活用方法について、検討していく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会や外部研修など中止となり、施設内の研修会などで話し合いを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月に運営推進会議を行い、ラシック全体での取り組みや現状を報告した。	感染予防対策の為、運営推進会議を書面にて行っていたが、12月には、対面にて法人施設と合同開催することができている。自治会、地域包括支援センター、民生委員等と意見交換を行い、地域交流センターの活用やオレンジサポーター育成等について、検討していくとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や包括支援センター、各病院からの情報交流や問い合わせなどの電話で対応した。	自治会や地域包括支援センターより、地区の活動活性化や地域高齢者への支援について、質問や協力関係の構築について依頼を受け、運営推進会議にて話し合いながら、連携と協力を行っていくとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、研修会を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止対策委員会を定期的開催し、マニュアルの見直し、「身体拘束ゼロ宣言」6つの基準、チェックリストの確認を行っている。全職員が身体拘束及び虐待防止について学び、正しく認識できるよう研修会も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待のないように注意している。 虐待防止委員会を設け、研修会も行っている。		

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に応じて必要とされる場合は関係者と連絡を取り、説明が行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、利用者、家族の意向をお伺いし、説明は丁寧に行っている。ご家族の不安を少しでもなくす為、施設内の案内も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子は毎月のお手紙に写真をのせ、日々の生活の様子を伝えている。時折、電話でも連絡をさせて頂いている。	毎月、日常の様子と近況報告書に利用者の写真を添えて、各家族に送付している。食事の摂取や排泄状況、レクリエーションの様子などを、詳細に伝えている。家族から、喜びの声を聴くこともある。現在は、電話やメール等で家族の意見や希望を聞いている。	感染予防対策の為、様々な制限もやむを得ない状況であるが、利用者と家族は対面式の面会を望んでいる。事業所として、今後、どのような体制で対応していくべきかを検討中である。利用者と家族の安心に繋がる支援の実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議を通じて職員の意見や業務の見直しを行っている。 11月にスタッフ1人1人と面談を行い意見を聞き、改善できることはすぐに対応した。	昨年の4月開設の事業所であるが、職員は互いの経験を活かしながら支援に取り組んでいる。管理者は、職員一人ひとりと面談を行い、意見や要望を聞きながら、共に働きやすい職場環境作りに努めている。また、職員の資格取得を奨励し、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には管理者会議などを通じて常に情報を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に考えながら働き疑問などあれば相談する時間を設けている。各委員会の研修会に参加しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各施設や居宅に挨拶・現在の状況等を伺いに訪問した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安に思うことなどを細かく聞き、出来る限り対応していくことを伝え、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明時は施設内を案内し、時間をかけ家族が納得いくまで説明を行っている。後日、気になることなどあれば電話での対応をさせて頂いていることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話しを全て聞き入れ最初に必要とするサービスの導入を見極め、サービスの提供を提案し納得の上利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必要とされる、されている立場なんだと自覚して頂くように、ご自身で出来ることは全てやって頂き、一緒にできることは行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なにかあればいつでも施設に電話して頂けるように努めている。利用者が不安にならないように普段の会話にも家族や大切な人への話題をするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は控えて頂いたが、施設内1階にて面会(10分程)を行っている。	感染拡大状況が落ち着いた頃に、予防対策をした上で、神社や町内行事に参加したが、再度、感染拡大が見られた為、現在、外出は自粛している。収束後には、地域交流スペースで、様々な行事を通じて、地域住民との馴染みの関係作りに取り組む予定としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々によって心身の状況等は違うが、出来る限り孤立しないように、スタッフも一緒になって集団体操やレクリエーションを行っている。温かい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様にはなにかあればいつでも連絡して頂くように伝え対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族の意向を聞いており職員間で確認し、趣味や生活歴を元に本人の意向に近づけるように努めている。	人に寄り添うのではなく、「その人」に寄り添う支援を目指している。日々、利用者が笑顔で暮らし、思いや希望を自分の言葉で話せるよう、信頼関係作りを心がけ、それらを受け止めながら思いの把握に努めている。新たに知り得た情報を記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時に本人、家族から情報収集を行い入所後も安心できるケアを見つけ対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々によって生活環境等が違ふ為職員一人一人が理解し、職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が各職員から利用者の状況、状態などを聞きモニタリングを作成している。その中で変化のあった部分を職員間で話し合いプランに反映し介護計画に基づき統一したケアに務めている。	家族の訪問時や電話の際に、介護計画についての希望を聞いている。担当職員は他の職員からも利用者の状態を聞き、モニタリングを行っている。介護記録や申し送り内容を職員間で検討しながら、介護計画を作成し、現状に即さなくなった場合は見直しを行っている。	
27	※	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事などを介護記録や申し送りノートに残し、管理者に報告や相談をし職員間で統一し、介護計画の見直しにいかしている。		
28	※	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体的状況などを見極め柔軟な対応を行っている。機械浴や栄養補助食品の提供、補助具の提供も行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域のボランティアの方などの力を借りて対応出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望を大切にしかかりつけ医、往診体制どちらでも可能な対応を行っている。 緊急の場合は医師の指示の元すぐ対応出来るように努めている。	契約時に、かかりつけ医についての方針を説明している。従前のかかりつけ医への受診時には、利用者の情報を文書にて提供し、家族が同行している。協力医は月に2回の往診がある。訪問看護ステーションとも連携しながら、緊急時にも利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時の対応など併設している看護師に連絡をとり、対応、アドバイスなど行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は病院関係者と情報提供をすぐに行い共有を行っている。病院関係者とは訪問したり、往診時に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した時の意向を確認し、説明、同意書を交わしている。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所の指針を説明し本人・家族の同意を得ている。利用者の状態変化時には、早い段階で関係者が話し合いを重ね、方針を共有しながら家族の意向に沿えるよう努めている。	現在、協力医や訪問看護ステーション等と連携しながら、医療支援体制の充実に向けての取り組みが実践されている。終末期の対応についても、更に体制を強化し、看取りを含めた支援の実現に期待したい。
34	※	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止、リスクマネジメント委員会を設け、研修会を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	オンライン等にて月1回BCP研修を行っている。 職員が周知できるようにスタッフルームに避難経路図を見える位置に置いてある。	防災訓練は、夜間想定を含めて実施し、職員の役割分担も確認している。地震・水害についても地域関係者と意見交換を行いながら、独居高齢者の支援についても問題提起をしている。地域の防災訓練にも参加し協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げてあるように、利用者の人生史を大切にしながら言葉がけに気をつけ対応している。	プライバシー保護についての研修は、新人教育時を含め定期的に行っている。職員は、人生の先輩である利用者の人格を尊重し、常に「その人」に寄り添う支援に努めている。言葉はゆっくりと丁寧に分かりやすく、笑顔で支援に努めている。	
37	※	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと丁寧に分かりやすく言葉がけを心掛けて対応している。 迷いがないように自己決定が出来る支援を行っている。		
38	※	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望、要望を聞き1日を過ぎて頂いている。日によって心身、身体共に変化していくためその時々に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ、身だしなみは本人に任せていますが、なかなか決まらない、決められない時はこちらで声掛けし、一緒に決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れながら、職員と一緒に具材を切ったり、盛り付けたり出来る範囲で行っている。後片付けは食器洗いや食器拭きを出来る範囲で行っている。	3食手作りの食事を提供している。食事作りは、利用者も残存機能が発揮できる場でもあり、時間になると自然にキッチンに利用者が集まり、できる範囲で手伝うことが習慣になっている。職員も同じメニューを食しながら、利用者が誤嚥することのないよう見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態や食べれる量などを把握し、1日のカロリーが足らなければ栄養補助食品等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。 毎月2回の歯科往診により、口腔ケアや状態把握を診てもらい清潔保持をしている。		

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認し、失敗の少ない支援を行っている。	できる限り、トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で支援している。布パンツの利用者もある。夜間も、見守り支援システムにより、体動をモニターチェックしながら、安眠に配慮した排泄支援を行っている。排泄用品については、利用者の状態に合わせて選択し、本人負担の費用軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日食物繊維や乳製品を取って頂き、水分も多く提供している。毎日、午前・午後と体操を行っている。天気の良い日は施設周りの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく利用者の希望に応じた時間を提供し、異性入浴介護を拒否される方は同性介護を行っている。	週2回の入浴ではあるが、利用者の希望を聞きながら、柔軟に対応している。個浴での入浴が困難になってきた利用者は、機械浴で対応し、安心・安全な入浴を楽しめるよう、コミュニケーションを図りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握しご自身のペースで休んで頂くよう支援を行っている。夜間寝れない時は声掛けをし、安心するまで傾聴し入眠の手助けに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がすぐに確認できるようにカルテに薬情を挟んでいる。毎日の服薬確認印も行い職員間でダブルチェックを行い飲み忘れのないケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸など趣味がある方は好きな時間に好きな場所でやりやいことを行っている。毎日歌や体操、散歩などで気分転換、楽しみを見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は制限をかけているが施設周りの散歩は人との接触が少ない為行っている。	以前は近隣の喫茶店や買い物に出かけたり、コミュニティセンターなどの行事に参加していた。季節の年間行事を計画し、利用者も楽しみにしていたが、コロナ禍で様々な外出支援が自粛となっている。今は、感染予防対策をした上で、施設内や周辺を散歩しながら、気分転換を図っている。	新型コロナウイルス感染予防対策の為、外出の自粛が続いている。今後、どのような支援で利用者が満足できるかを検討している。ホーム全体で話し合い、外出支援の代替えや、新たな支援の実現に期待したい。

岐阜県 長森いきいき倶楽部ラシック

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを防ぐ為お金の持ち込み、預かりは行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者は見え、家族や知人に連絡を取れる環境にあります。施設の電話を使い、家族等とお話される方もいます。施設に手紙が届くのでその都度手紙をお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにオゾン発生装置を設置しており、ウイルスの感染予防対策を行っている。照明に関してもサーカディアン照明を採用し、体内リズムを整え、質の高い睡眠と日常を保って頂いている。	感染予防対策の為、共用スペースと居室への入室はせず、写真や動画等での確認となった。ホーム全体に最新の光環境システムが導入されており、利用者の体内リズムを整えながら、良質な日常を送れる環境作りを行っている。2ユニットの中央にキッチンがあり、利用者も調理参加がしやすく、職員は見守りもしやすい。リビングの隣には、ウォーターベッドの設置がある。窓も多く、金華山や外の景色を眺めながら、利用者が快適に過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然が見渡せ、気の合った利用者同士が過ごせる場所があり、マッサージ機も設置してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコン、洗面台、ベッド等設置している。本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や洋服等をなるべく持ち込んで頂き、1人1人に合った好みの空間を作っている。	居室は、利用者に分かりやすい表札があり、洗面台・電動ベッドが設置されている。マットレスの下には、体動を測定できるセンサーが設置されており、居室に入ることなく、利用者の睡眠状態やバイタル等を把握することができる。モニターやアラームで適切な見守り、介助ができる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で行けるように廊下に手すりがついており、場所が分かるようにトイレにはトイレマーク、各居室のドアには名前が貼ってある。		